



風力発電は海外を目指す

発電事業の継続こそが信頼獲得の道

ユーラスエナジーホールディングス 清水正己社長

ユーラスエナジーホールディングスは、日本の風力発電事業の草分け的存在であり、リーディングカンパニーでもある。国内の風力発電導入量は2013年も低い水準となったが、開発に時間の掛かる風力発電が大きく動き出すのはこれから。今後の市場をどう見ているか、清水正己社長に聞いた。

——固定価格買取制度の見直しが始まっている。どのようにお考えか

清水 あくまで現段階の話として、例えば買取価格は運転開始時に決めるような意見もあるようだが、これを風力発電に適用すると事業を推進するかどうかの投資判断が非常に難しくなる。日本風力発電協会からも適正なお願いをしていく。当社はメガソーラーも手掛けているが、主力は風力発電であり、太陽光発電については現状を踏まえると、現在建設中の案件を除いて当面は様子を見ることになる。

——国内風力発電の単年度導入量は2013年に35.1MWの水準となった。風力が法アセスメントの対象になったことも踏まえて固定価格買取制度導入前に現在の状況は予想していたか

清水 固定価格買取制度が追い風になると思ったのも事実だが、風力発電は開発を始めてから稼働まで早くても7～8年かかる。方や2年程度の太陽光発電との違いを考えれば現在の導入量の差は当然だろう。しかし固定価格買取制度が導入される前から系統連系が課題であるという事は認識されていたので、根本的な問題は解決していない。



清水正己氏

——北海道の送電網整備実証事業に参画している。(風力発電のための送電網整備実証事業として、風況が良く送電線が脆弱な地域を「特定風力集中整備地区」として送電網を整備する実証事業)

清水 北海道北部風力送電線に出資しているが、当社としては送電事業をビジネスモデルとする訳ではない。ただ送電網の整備・増強をすることで、当社のウインドファームの建設が可能になる。当社は国内の風力発電でリーディングカンパニーであり、今後も再生可能エネルギーの事業者として風力発電を拡大するという使命を果たすべきと考えている。

——環境アセスメント期間の短縮化や農地の転用、保安林の活用など規制緩和がなされているが、風力発電の開発にとって追い風となるのか

清水 方向性が出たことは後押しになるが、(風力発電開発の)現場で実感できるまでは時間が掛かるだろう。しかし規制緩和により風力発電の建設の可能性は大きく拡がることより、大いに期待している。

ユーラスエナジーHDの沿革

1986年10月	トーメン(現豊田通商)グループ電力事業として開始
1987年9月	アメリカで事業開始(モハベ風力発電所)
1988年9月	現Eurus Energy America Corporationを設立
1993年3月	イギリスで事業開始(P&L、RYG風力発電所)
1996年12月	イタリアで事業開始(IVPC風力発電所)
1997年4月	現Eurus Energy Europe B.V.を設立
1998年2月	スペインで事業開始(Paxareiras I&IIa風力発電所)
1998年9月	トーメンパワージャパン設立
1999年11月	日本で事業開始(苫前グリーンヒルウインドパーク)
2001年11月	分社化、トーメンパワーホールディングス設立
2002年10月	ユーラスエナジーホールディングスに商号を変更
2004年3月	株主構成の変更(東京電力60%、トーメン40%)
2004年12月	設備容量100万kW達成
2005年12月	韓国で事業開始(江原道ガンウォンウインドパーク)
2006年4月	株主構成の変更(東京電力60%、豊田通商40%)
2008年5月	グループ初の太陽光発電事業を韓国で開始
2011年3月	設備容量200万kW達成
2011年7月	ノルウェーでHøg-Jæren EnergiPark風力発電所運転開始
2011年8月	米国で太陽光発電事業開始
2012年1月	株主構成の変更(豊田通商60%、東京電力40%)
2012年5月	豪州で事業開始(Hallett5風力発電所)
2013年9月	自社初の国内太陽光発電所完成

——国内で風力発電事業が始まり、様々な事業者が参入してきて撤退や統合がなされてきた。そのなかで持続的に開発してリーディングカンパニーとして続けられる要因は何か

清水 地道な活動を継続してきた、と言うことに尽きる。地元の方々のご理解とご支援をして頂くことに尽力してきた。自治体や地権者等のみならず、地元の金融機関に対しても、プロジェクトファイナンスに参加していただけるようお願いしている。地元の金融機関が参加してくださることは非常に重要なことだ。

——苫前ウインドファームの設備更新の準備をしているが、当初からの計画だったのか、今後も同様の計画が出てくるのか

清水 苫前は当社の前身であるトーメンパワー・ジャパンが1999年に日本で初めてのウインドファーム(集合型風力発電所)を建設した。時期が来れば苫前のみならず当然リパワーを考えている。初期に建てたウインドファームは風況条件の良いところであり、また、風車も技術革新で初期のものより効率の良い設備となっているので、設備を更新して事業を継続する意義は十分ある。送電設備を新たに設ける必要がない点も大きい。まずは苫前が先陣を切る形で、今後もリパワーの計画は出てくる。

——国内で洋上風力発電の可能性はどのように見ているか

清水 当社も北海道の稚内での事業を視野に入れ、風況調査をしている。但し、一気に百基ほどの建設をするということではなく、まずは着床式で数基程度を建てて、色々な課題を洗い出すことになるだろう。

——最近ではイタリアですでに稼働している風力発電事業に参画した。今後の海外展開はどのように考えているのか

清水 当社の方針としては、まずは風力発電事業に対する制度が整っている国で、カントリーリスクも考慮す

る。イタリアの案件は操業中の発電所を買収したが、今後もいくつかの条件が整えば積極的に進めていく。尚、当社はあくまで発電事業として、一度投資したら最後まで運営するのが原則。出資した後で売却することはない。国内でもいくつか買収した例があるがこれも同様に当社で操業、そしてリパワーまで検討する。「ユーラスがやるからには長期の発電事業として信頼出来る」と評価頂くこと、これこそが当社の強みになる。

——御社の今後の事業ポートフォリオは、国内と海外でみるとどのようになるのだろうか

清水 当社はグローバルに事業展開することで、気象や再生可能エネルギー導入制度のリスクを分散させている。大まかではあるが、日本・アジアと米国、欧州はおよそ1:1:1にある。これが大きく変わることはないが、中期的には日本の伸びが大きいだろう。北海道の送電網整備などで、大規模な開発が可能になる。

ユーラスエナジーHDが開発している太陽光発電、風力発電プロジェクト例 〔太陽光発電〕 全て建設中

名 称	場 所	発電容量 (kW) AC
ユーラス六ヶ所ソーラーパーク	青森県六ヶ所村	115,000
ユーラス天明ソーラーパーク	宮城県福島県	14,000
ユーラス矢吹中島ソーラーパーク	福島県	8,000
ユーラス津名東ソーラーパーク	兵庫県淡路市	33,500
ユーラス豊頃ソーラーパーク	北海道豊頃町	22,000
建設中合計		192,500

〔風力発電〕 建設中

名 称	場 所	発電容量 (kW)
ユーラス秋田港ウインドファーム	秋田県秋田市	18,000
ユーラス輝北ウインドファームII	鹿児島県霧島市	6,000
ユーラス河津ウインドファーム	静岡県河津町	16,700
ユーラス由利高原ウインドファーム	秋田県由利本荘市	51,000
建設中合計		91,700

〔風力発電〕 開発中(アセス段階)

名 称	場 所	発電容量 (kW)
伊達風力発電事業拡張計画	北海道伊達市	最大50,000
北海道浜頓別Ⅲ風力発電	北海道浜頓別町	36,000
常呂・能取風力発電事業	北海道北見市、網走市	最大45,000
新苫前風力発電事業	北海道苫前町	最大20,000
市浦風力発電事業	青森県五所川原市	34,000~51,000
蒲野沢ウインドファーム	青森県東通村	16,000~33,000
小田野沢Ⅱウインドファーム	青森県東通村	16,000~42,000
冷水峠風力発電事業	青森県むつ市、東通村	最大81,000
釜石広域風力発電事業拡張計画	岩手県釜石市、遠野市、大槌町	最大105,000
石巻風力発電事業	宮城県石巻市	16,000~20,000
東由利原風力発電事業	秋田県由利本荘市	39,000
鹿角上沼風力発電事業	秋田県鹿角市	最大50,600
徳島県上勝町・神山町ウインドファーム設置計画	徳島県上勝町、神山町	最大60,000
大豊風力発電事業	高知県大豊町	最大23,000

〔風力発電(共同出資)〕 開発中(アセス段階)

名 称	場 所	発電容量 (kW)
天北風力発電所	北海道稚内市	30,000
道北中央風力発電事業	北海道稚内市、豊富町、幌延町	最大150,000 (1事業あたり)
道北北西部風力発電事業	北海道稚内市、豊富町	最大80,000 (1事業あたり)